

祝・教育総合類型12期生卒業

2月28日（火）に、教育総合類型の生徒を含む38回生の卒業証書授与式が行われ、巣立っていきました。答辞を読んだのは、類型で3年間活躍し、後輩たちにより影響を与えてくれた福井蓮くんでした。多くの卒業生、保護者の方、教職員が目うるませるすばらしい答辞でした。

卒業生の中には、保育系の専門学校や短期大学への進学が決まっている生徒もいます。類型の様々な活動に積極的に取り組み、後輩のサポートをしてくれました。これから多くの経験を積み、本校で学んだことを生かし、いつの日か小学校教諭や幼稚園教諭、保育士になることを楽しみにしています。



合格体験記 38回生より

- ① 進学先：園田学園女子大学短期大学部 幼児教育学科 2年コース
- ② 将来の夢：保育士の資格を取得し、病児保育士になること。
- ③ 合格に向けて取り組んだこと

受験の時、自己PRや入学希望理由書をすらすら書くことができました。ふだん長い文章を書く機会がないので、類型ノートで文章を書いてきてよかったと思いました。

- ④ 類型の学習で役に立ったこと

ふれあい農園やインターンシップ、大学の先生の講義、手遊びの実践、類型ノートの作成などが役に立ちました。

大学入学後の保育実習のときに困らないよう、ふれあい農園などで、園児一人ひとりと向き合い、寄り添うよう頑張ってきました。園児とふれあう活動の時には、子どもたちの視点で考えたり行動したりするよう心掛けました。

- ⑤ 後輩へのメッセージ

私は、周り比べると、勉強も苦手な、授業もまじめに受けていなかったけれど、保育の活動は、誰よりも率先して全力で取り組みました。やる時はやる！ というけじめをしっかりつけて頑張ってください。子どもたちと全力で鬼ごっこをしてみてください。とても楽しくおすすめです！！

37回生からのメッセージ（続き）

前回に続き、昨年度卒業した37回生からの近況報告を掲載します。以下のメッセージを届けてくれた卒業生のように、保育、幼児教育、初等教育に限らず、子どもと関わる仕事を目指し、類型で学んだことを生かしている人もいます。

【メッセージ その4】 進学先：甲南女子大学

① いま、学校で学んでいること

養護教諭になるために、小児の疾患など、看護の勉強をしています。

② 教育総合類型の活動で、いま役に立っていること

教育総合類型では、文章を書くことが多く、その経験が今でも役に立っています。看護の授業では、毎日のようにレポート課題が出されるため、文章を書くことが多いですが、高校時代にたくさん書いてきたので、そこまで苦痛に感じることなく、早く質の高いレポートを書くことができていると思います。

③ 後輩へのメッセージ

この類型で学んだことは、どこにいても役立つことばかりです。例えば、授業などで子供たちとふれあう機会がありますが、相手に合わせて会話をしたり接したりする力が磨かれます。この力は、自分と年代の違う人たちとコミュニケーションをとるときにも役立ちます。つらいときは、高校の時の友達と会ったりしてリフレッシュしています。みなさんも仲間を大切に、後悔しない道を選択してください。仲間や先生、自分を信じて頑張ってください。応援しています。

冬のふれあい農園

学年末考査最終日の2月27日（月）の放課後、教育総合類型の1年生が、本校ふれあい農園でジャガイモの種イモを植えました。これは、来年度に夙川宝プリスクールの子どもたちを招き、一緒にイモ掘りをするためのものです。この日は、畝を作って肥料をまき、種イモを植えました。最後に、日光が直接当たって土壌の水分が奪われるのを防ぐために、マルチシートをかぶせました。

卒業式の予行のために来ていた3年生の類型の生徒も手伝いに来てくれました。



生徒の感想より

- 体力を使って疲れたけれど、子どもたちの笑顔を思うとやりがいを感じます。
- 一緒にイモを掘るのが楽しみになりました。

37回生からのメッセージ（続き）

昨年度に卒業した37回生（大学・専門学校1年生）からメッセージが届きました。いま、学校で学んでいること、本校教育総合類型で学んで活用していることについて教えてくださいました。協力してくれた卒業生のみなさん、ありがとうございます！

【メッセージ その3】 進学先：大阪教育大学

① いま、学校で学んでいること

小学校の専科の授業（図画工作、理科、生活等）、幼児教育の領域の授業（人間関係、表現等）、人権教育に関すること（ダイバーシティと同和問題）

② 教育総合類型の活動で、いま役に立っていること

リトミック（現在の保育探究）で絵本等の読み聞かせや手遊びなどをする機会が多くあったことや、ふれあい農園やインターンシップなどで子どもたちと関わる機会が多かったこと、乳幼児期の発達や子育て支援に関することなど多くの知識を得られたことが、役に立っています。どの経験も大学の授業やレポートを書くときなどに役立っています。

③ 後輩へのメッセージ

教育総合類型での活動はどれも貴重な経験で、この先、役に立つことばかりです。夢に向かって頑張ってください！

保育実習

2月2日（木）の5・6限目に、類型の2年生が夙川宝プリスクールを訪ねて、保育実習を行いました。これまでの教育基礎（学校設定科目）の授業の中で、教材の準備をしてきました。鬼のお面を子どもたちと製作した班は、事前に切り取り線を書いた色紙を用意しており、子どもたちも楽しく自分なりの鬼のお面を作りました。「おにのパンツ」を踊る活動をした班は、事前に段ボールと色画用紙で作った鬼のパンツを子どもたちにはいてもらい、「おにのパンツ」の歌に合わせて踊りました。子どもたちから「（テンポを）速くしたい」という要望がありましたが、臨機応変に音源の速度を上げて対応していました。外遊びの班は、「だるまさんがころんだ」や、縄くぐりや障害物をよけながら走るゲームなど、様々な遊びを組み合わせた活動を行いました。発達段階に応じた体の動きをさせるような配慮が見られました。



37 回生からのメッセージ

昨年度に卒業した37回生(大学・専門学校1年生)からメッセージが届きました。いま、学校で学んでいること、本校教育総合類型で学んで活用していることについて教えてくださいました。協力してくれた卒業生のみなさん、ありがとうございます！

【メッセージ その1】 進学先：聖和短期大学

① いま、学校で学んでいること

子どもの体の発達、子どもの健康について、ピアノの演奏、指導案の書き方、季節に合わせた造形などを学んでいます。関西学院幼稚園での参観実習にも取り組みました。



② 教育総合類型の活動で、いま役に立っていること

教育総合類型で学んだことは、大学でもとても役に立っています。大学では、高校で学んだことをレベルアップした内容を学んでいます。高校で一度学んでいるので、大学では少し楽に感じます。

③ 後輩へのメッセージ

短期大学は、学ぶ期間が2年と短いので、毎日とても忙しく、一日に受ける授業も多いですが、とても楽しく充実しています。先生方もとても優しいです。進路のことでとても悩むと思いますが、自分が将来やりたいことを見つけて頑張ってください！ 甲山高校の先生もみんな優しく、入試の面接練習にもたくさん付き合ってくれます。たまには息抜きも忘れずに！ 応援しています。

【メッセージ その2】 進学先：神戸元町こども専門学校

① いま、学校で学んでいること

保育現場での活動の実践練習や、絵本・紙芝居の読み聞かせ、連絡帳や日誌の書き方やピアノ演奏法について学んでいます。



② 教育総合類型の活動で、いま役に立っていること

教育総合類型の活動を通じて、人前に立つことに慣れたので、今も物怖じせず人前でたくさん話せるようになりました。

高校で保育について学んでいるので、専門学校の授業内容が頭に入りやすいです。

③ 後輩へのメッセージ

教育総合類型で学ぶ内容はきっと役立つので、めげずに頑張ってください！ 遊びも忘れずにね！

「37回生からのメッセージ」は、次号に続きます。

高大連携による授業（音楽Ⅰ）

1月12日(木)の3時間目に、本校と高大連携協定を結んでいる甲子園短期大学特任講師の木村雅代先生にご来校いただき、教育総合類型の1年生を対象に、絵本の読み聞かせについての授業をしていただきました。

前半は、絵本の歴史や絵本の効用について、具体例をまじえながら説明していただきました。後半は、絵本の読み聞かせに役立つ発声や発音の仕方に加え、表現力の基礎を教えていただきました。絵本『あーと いったよ あー』（福音館書店）を使い、さまざまな心情を「あ」の母音で表現する練習をしました。また、簡単なフレーズを使って気持ちを伝える練習では、言葉を強調するための方法を具体的に学びました。

今後、保育園児と関わる時など、音声による表現活動に応用して行ってほしいと思います。



生徒の感想より

○絵本の読み聞かせで余命が伸びたという「クシュラの奇跡」の話を聞いて、絵本の力ってすごいなと思いました。声の出し方を教えてもらったので、これから読み聞かせをするときに生かしたいと思いました。

○声の出し方のスキルは、保育者にとって必要なスキルであり、日常生活でも使えるものでした。保育者になる上でとても大切で有意義な内容を学ぶことができました。

選択科目「手話」（学校設定科目）発表会

1月13日(金)に、「手話」の発表会がありました。この授業を選んだきっかけをテーマに、一人ずつ手話を発表しました。自分で発表の文章を考え、それを手話で表現するために1か月ほど練習をしてきました。口話と手話との微妙な表現の違いに苦労しながらも、堂々と発表することができました。



生徒の感想より

○人前で話すことはこれまでもありましたが、手話で自分の思いを多くの人に聞いてもらうのは初めてでした。話すより手話の方が伝えたいことがすらすらと言えないので大変でした。ろう者の大変さを感じることができました。

教育総合類型通信 第11号

令和4年12月19日

発行 県立西宮甲山高等学校
教育総合類型推進委員会

高大連携による授業（音楽Ⅰ）

12月5日(月)の1時間目に、教育総合類型の1年生を対象に、本校と高大連携協定を結んでいる甲子園短期大学の^{上田}智佳先生にご来校いただき、授業をしていただきました。

前半は、9月15日(木)の上田先生の授業で取り組んだ手遊び歌「グーチョキパーで何つくろう」を一人ずつ発表しました。それぞれ創意工夫を凝らした発表になりました。その後、自分の発表を振り返りながら、子どもたちの前で手遊びをする際に気を付ける点について考えました。身だしなみや姿勢、表情など、細かな配慮が必要であることを実感したようです。後半は、グループ分けに役立つ「猛獣狩りに行こうよ」などの手遊びに取り組みました。実際の保育の現場に出たときに、ぜひ活用してほしいです。



生徒の感想より

- 自分の手遊びが子どもたちに楽しんでもらえるか不安でしたが、クラスの前でやると明るい雰囲気になったので、自信につながりました。
- 少し恥ずかしかったのですが、頑張って声を出すことができました。子どもたちの前では、もっと堂々とできるようになりたいです。

教育総合類型 合同授業

12月13日(火)の4時間目に、1～3年生の教育総合類型の全ての生徒が一堂に集まり、これまでの取組の成果を発表しました。1年生は「ツバメダンス」を、2年生はフラダンスを、3年生は代表生徒1名によるペープサート「十二支のはなし」を発表しました。最後に、昨年度の類型の卒業生(37回生)が書いてくれた在校生への手紙を披露しました。類型の活動等を通して人前で話すことができるようになったこと等、とても勇気づけられる内容の手紙でした。



生徒の感想より

- 踊るのは恥ずかしかったが、先輩たちが温かい目で見てくれたのでうれしかったです。(1年生)
- 1年生が懸命に踊っていてかわいかったです。(2年生)



こどもの絵の見方、考え方（教育基礎）

11月24日(木)の午後より神戸教育短期大学に伺い、前川豊子先生による、こどもの絵の見方に関する授業を受けました。「こどもの絵は内面の自己表現である」というテーマのもと、実際に幼児が描いた絵を観察するという活動を行いました。その中で、子どもが自由に表現できる雰囲気の大切さや、長期的にこどもの絵を観察し続けて内面を読み取ることの難しさを学んだようです。大学で講義を受けるのは初めてであり、当初は緊張した面持ちでしたが、今までとは絵に対する見方が変わるなど、多くの発見や学びがあったことがうかがえました。



生徒の感想より

- 小さな幼児は何も意図せず絵を描いているだけだと思っていましたが、幼児の深い内面が表現されていると知りました。保育士になった時に、気づけるようになりたいです。
- 子どもは絵のなかに、感動したことや嬉しいこと、楽しいことだけでなく、怒りや不安、不満も表現しており、一つ一つ丁寧に感情を読み取ることが大切だと思いました。

西宮市青少年表彰

教育総合類型が西宮市長から「西宮市青少年表彰」を受けることになりました。長年の教育総合類型の生徒による神原育成センターでの活動を、地域のコミュニティ活性化に係る活動として認めていただきました。毎年、教育総合類型の生徒が夏休み中に神原育成センターで地域のこどもたちに大型ペープサートや手話歌を披露してきました。11月26日(土)に、代表生徒3年生1名、2年生3名が若竹生活文化会館に赴き、市長から直接、表彰状をいただきました。



生徒の感想より

- 今回、私たちが取り組んできた大型ペープサートや手話歌がこのように表彰され、誇らしく思っています。今後も、教育総合類型の活動を通じて、地域の方々に貢献できるように頑張っていきたいと思えます。

音楽あそび（教育基礎）

11月17日（木）の5・6時間目に、神戸教育短期大学の井本英子先生に来ていただき、5時間目は手遊び、6時間目はハンドベルに取り組みました。手遊びの時間では、手拍子を打ちながら、そのリズムに合わせて自分の名前を伝えていく自己紹介を行いました。取り組む中で、幼児期にリズム感覚を育むことの大切さを実感したようです。ハンドベルの時間では、7～8人のグループに分かれて《ジングル・ベル》の合奏練習を行いました。練習を重ねていくたびに、それぞれの音が重なってハーモニーが生まれ、綺麗な音色を奏でることができました。



生徒の感想より

○2時間があったという間に終わるくらい楽しかったです。ジングル・ベルを演奏した時は、楽譜を読むことと、自分のパートの音を正確に鳴らすことが難しかったです。しかし、16人の音が一つになった時は、とても気持ちよく感動しました。

○ハンドベルを体験してみて、みんなで何かを成し遂げることは、小さな子どもにとってもきっとうれしい経験になると思いました。

3年・「ソルフェージュ」

「ソルフェージュ」は、幼児教育の進路希望者が3年次に選択受講する科目で、ピアノの弾き語りができるようになることを目標にしています。前半は歌、後半はピアノの練習に取り組めます。1学期は、歌は声楽教本、ピアノは各自の進度に合わせてバイエルピアノ教本に取り組みました。2学期からは、保育の現場で歌われる歌唱教材を使っています。受講生徒の中には、ピアノは全くの初心者という人もいますが、毎日練習を重ねることで、《かえるのうた》《きらきらぼし》などの曲を弾き語りできるようになってきています。卒業後も技能を磨いて活躍してほしいです。



祝 絵本コンクール 優秀賞受賞

本校教育総合類型1年生の小林葵さんが作った絵本『せみのせかい』が、「第3回絵本コンクール in 甲子園短大」において、優秀賞を受賞しました（2名最優秀賞、1名優秀賞）。11月7日（月）に、甲子園短期大学学長の早坂三郎様が来校され、小林さんに表彰状を手渡されました。なお、この作品は、教育総合類型の1年生が夏休みに課された宿題として取り組んでいたものです。



小林さんは、「絵を描くのが苦手なので、貼り絵を活用しました。本を読むのが好きなので、ストーリーを工夫しました。」と振り返っていました。詳細は、甲子園短期大学のウェブページでご覧いただけます（URL：<https://www.koshien-c.ac.jp/news/2662/>）。

3年・学校設定科目「手話」

「手話」は、3年生の選択科目で、聴覚障がいのある子どもとの接し方を学ぼうと、幼児教育の進路希望者が受講している授業です。毎回の授業に西宮市聴力言語障害者協会ろうあ部会から北川良子先生と星和子先生に1年を通して特別非常勤講師として来ていただき、手話や耳の不自由な方とのコミュニケーションの仕方について指導していただいています。11月4日には、同協会から檀上千恵さんと山内紫津子さんにもご来校いただき、手話を用いたコミュニケーションを行いました。自己紹介・好きな食べ物・趣味などを互いに伝え合い、日ごろの練習の成果を発揮することができました。



生徒の感想より

○手話で表現できないこともありましたが、伝えたいことが通じたり、相手の手話を理解できたりしたときにとてもうれしく思いました。

○とても楽しかったです。手話を勉強していてよかったと思えました。これからも手話の勉強を続けて、もっと伝えられるように頑張りたいです。

○文にできなくても、単語で伝えられた場面もあり、良かったです。

幼児体育の理論と実践（教育基礎）

10月20日（木）・10月27日（木）の5・6時間目に、放課後等デイサービスエーワンの西条喜博先生と宮本誉史先生に来ていただき、教育総合類型の2年生が幼児体育についての授業を受けました。

まず、宮本先生から、幼児を対象に実践しているストレッチや遊びを教えてくださいました。実際に体験しながら、幼児に対して実施する際に楽しみながらできるようなポイントについても教えてくださいました。生徒たちはみな全力で取り組んでおり、童心に帰って楽しむことができたようです。長く幼児教育の現場で指導されてきたご経験を踏まえた実践的な内容を体験でき、有意義な時間となりました。



また、西条先生から、幼児期の体づくり運動について理論と実践を教えてくださいました。運動の経験のない幼児に、走り方や跳び方を教える際の言葉掛けの仕方について丁寧に教えてください、大縄を跳べるようになるための段階的な指導の仕方についても体験しながら学ぶことができました。

生徒の感想より

- 小さな子どもの目線でいろいろな運動を体験することができました。将来、小学校の教師になったときに役立てたいと思いました。
- 幼児のころは、体をどう動かすかを考えていないので、指導する者が姿勢や足の動かし方をしっかり伝えて教えてあげないといけないと考えさせられました。

3年生の卒業製作（保育探究）

保育探究は、幼児教育の進路志望者が3年次に選んで受ける授業です。この授業では、9月以降は「卒業製作」に取り組めます。今年度も第2学期末の卒業製作発表会に向けて順調に仕上げてきています。生徒の希望に応じて、パネルシアター、ペープサート、ぬいぐるみシアター、スケッチブックシアターなどを作っています。この卒業製作は進路先でも役立っているようで、卒業生からは、保育実習の教材として役立っているとの報告を受けています。



インターンシップ成果発表（教育基礎）

10月6日（木）の第5校時に、教育総合類型の2年生が、夏休みに取り組んだ保育園インターンシップの成果をスライドにまとめて発表しました。類型の1年生も参加して、成果発表を聞き、来年に向けた心構えを高めました。各班の発表の中で、活動の内容やこども園の仕組み、先生たちの仕事の様子を詳細に伝えていました。年齢別にまとめたスライドは見やすく、1年生に向けたメッセージを伝えた班もあり、1年生にとっても有意義な時間になりました。また、インターンシップを実施させていただいた夙川宝プリスクールの理事長・渡邊洋一先生と園長・西峯見智子先生にご来臨いただき、ご講評をしていただきました。



生徒の感想より

- 先輩の経験談を聞き、何歳の子にはどんな対応をすべきかが分かりました。（1年生）
- スライドが見やすくなるよう頑張りました。1年生に向けて子どもたちの笑顔を見られるだけでなく、つらいことも伝えるつもりで発表しました。（2年生）

秋のふれあい農園

10月18日（火）の放課後、教育総合類型の1年生が中心となって、安井保育園の園児たちとサツマイモ掘りをしました。農園のマルチシートや雑草を取り除いて掘り出しやすい状態にした後、バス停に園児たちを迎えに行き、農園で一緒に掘り出しました。園児たちが円滑に掘り出せるように、掘り当てられる場所を探して誘導する様子が見られ、成長を感じる瞬間でした。イモ掘りの後は、園児たちから歌のプレゼントがありました。



生徒の感想より

- 人見知りの子どもと距離を縮めることがとても難しかった。それでも、諦めずに話しかけることが大切だとわかった。（1年生）
- 子どもの言っていることに対して、共感の言葉を使うようにした。サツマイモをいっぱい収穫できてよかった。（1年生）

高大連携による授業（音楽Ⅰ）

9月15日（木）に、本校と高大連携協定を締結している甲子園短期大学の上田智佳先生にご来校いただき、教育総合類型の1年生を対象に授業をしていただきました。最初にわらべ歌や手遊び歌を実践しながら、どの発達段階で手遊びの動きができるようになるかについて考え、発達の観点から教材を見ることを学びました。また、保育の5領域についても教えていただき、わらべ歌は「音楽」以外の領域の発達も促すことができることを学びました。

次回、11月に上田先生にご来校いただく際には、「グーチョキパーで何つくろう」の手遊びを各自で考えて発表する予定です。



生徒の感想より

- 先生のお話が興味深いものばかりで、とても惹きつけられました。
- 知らない手遊び歌にも取り組むことができ、楽しかったです。
- 手遊び歌「とんとんとんとんひげじいさん」の体の動きと音の高さが対応しているという話が印象に残りました。

体育大会 教育総合類型プログラム

9月30日（金）に開催された体育大会の中で、教育総合類型プログラムを行いました。夙川宝プリスクールの園児たちを招き、類型の3年生と一緒にリレー種目に出場し、バトンをつなぎました。高校生から園児たちにバトンを渡す際に、「がんばれ」と声をかける場面も見られました。リレー終了後は、園児一人一人に手作りのメダルをプレゼントしました。このメダルは、受験勉強の合間を縫って、類型の3年生が作ったものです。



生徒の感想より

- 今回のプログラムで、あらためて子どものすばらしさに気付くことができた。走っている様子を見て、元気な体づくりが大切なのだと思います。

かんばら子ども教室

8月4日(木)に、類型の生徒有志で神原育成センター(西宮市立神原小学校内)を訪ね、センターを利用している小学生と交流しました。2年生が大型ペープサート「かぐや姫」を、3年生が手話歌「虹」を披露しました。その後、子どもたちに手話を教え、一緒に手話歌に取り組みました。その後、本校PTAの旧役員の方々に結成された人形劇団「かぶとむし」による「3匹のこぶた」を子どもたちとともに観劇しました。子どもたちから笑いや歓声が上がっており、劇団の方から「演じる」ことを学ばせていただくよい機会になりました。

最後に、子どもたちとけん玉やドッジボールなどの遊びをし、今度は高校生が子どもたちからけん玉を教えてもらいました。参加した生徒は感謝状をいただきました。



生徒の感想より

最初は緊張しましたが、これまで多くの発表の機会に取り組んできたので、子どもたちの顔を見ながら落ち着いて取り組むことができました。(3年生)

保育園インターンシップ

8月の夏休みの間、教育総合類型の2年生全員が、夙川宝プリスクールでインターンシップに参加し、4~6人の班に分かれて、各班2日間取り組みました。

それぞれが自分の担当するクラスに入り、0~2歳のクラスでは、食事の補助や、寝かしつけなどを体験しました。3~5歳のクラスでは、朝のマラソンやプール遊び、国語・英語・算数の勉強のサポートをし、午後の園庭での外遊びでは、活発な子どもたちにも負けずに一緒に走ったり、抱っこしてあげたりと、全力で取り組んでいました。



夏のふれあい農園

7月5日（火）の放課後に、夙川宝プリスクールの園児たちを招き、教育総合類型の1～3年生がふれあい農園でジャガイモの収穫をしました。子どもたちが楽しく掘り当てられるように、生徒たちがうまくサポートしていました。たくさんのジャガイモを収穫することができ、園児たちも満足した様子でした。収穫の後は、園児たちからハーモニカによる「かえるのうた」の演奏、和歌山県民謡「串本節」を披露してくれました。



生徒の感想より

- 僕が担当した子は、初めはほぼ会話ができませんでした。イモを掘りながら打ち解けて、最後は笑って手を振ってくれました。とてもうれしかったです。（1年生）
- 一人で二人の園児の世話をしていたので、離れ離れにならないよう声を掛けたり、離れてしまったときは近くの人に協力してもらったりしました。（1年生）

オープンハイスクール

7月29日（金）に、西宮市民会館で本校のオープンハイスクールを実施しました。その中で、教育総合類型の取組について、実演を交えて伝えました。1年生は赤ちゃんへの授乳の実演などを発表しました。2年生は紙芝居の読み聞かせとペープサート劇「かぐや姫」を発表しました。3年生はパペットによるお話やインターンシップの成果の発表をしました。



春のふれあい農園

5月25日(水)の放課後に、教育総合類型の1・2年生がふれあい農園でサツマイモの苗を植えました。ふれあい農園では、毎年、類型の生徒たちの手によってジャガイモとサツマイモを育てています。収穫の時には、近隣の保育園や認定こども園の園児たちを招いて一緒に掘り出します。この日に植えたサツマイモも、秋に園児たちを招いて収穫する予定です。

この日は、最初に雑草を抜いて耕し、畝を作って肥料をまき、苗を植えました。園児たちが通れるように、通路の雑草を抜いて整備しました。日差しの強い中、力仕事もありましたが、皆で協力して成し遂げることができました。



生徒の感想より

○周りの人たちと協力することの大切さをしっかり学べてよかった。虫に驚いてしまったが、次に子どもたちと参加するときには慣れておきたいと思った。(1年生)

○耕うん機が重くて大変でしたが、土をふかふかにできたので、やりがいを感じました。(2年生)

○暑い中でしたが、1年生とも交流できて楽しかったです。(2年生)

保育技術検定

保育技術検定は、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会が実施している検定試験で、保育に関する知識と技術を問うものです。例年、1年生は4級を、2年生は3級の試験を受けています(今年も5月～6月の間に受検しています)。手拍子を打ちながら歌う試験や、折り紙(折り方も覚えます)、読み聞かせ、人形を使った乳幼児の世話の実演等に取り組みました。保育士や幼稚園教諭になるために必要な力がどのようなものかについて知り、これからの学びの見通しを持つためのよい機会になったようです。



写真左：4級の折り紙作品

右：3級の折り紙作品

教育総合類型通信 第1号

令和4年5月25日

発行人 県立西宮甲山高等学校
教育総合類型推進委員会

大学教員による講話（教育基礎）

4月28日（木）、教育総合類型の2年生が受講している教育基礎の時間に、芦屋大学の安藝雅美先生をお招きし、保育についてのお話をさせていただきました。前半は、保育者の役割や子どもの発達について、たとえ話を交えながら丁寧に説明していただきました。後半は、新聞紙を使って、雨の日の部屋遊びで使える道具作りに挑戦しました。この体験を通して、新聞紙は安全に遊べる等の利点があること等を学びました。



生徒の感想より

- 保育者とは、育てる人、世話をする人ではなく、「一人ひとりの子どもの成長をサポートする、一番の協力者」と聞き、すてきな考え方だと思いました。
- 保育者は、「一人ひとりの子どもが幸せな大人になるための土台をつくる一番の協力者」であると聞き、保育士は、園児たちの人生の大切な第一歩に携わる仕事だと思いま

幼稚園見学（教育基礎）

5月12日（木）に、教育総合類型の2年生が芦屋大学附属幼稚園に伺い、午後の遊びの様子や終わりの会や降園の様子を見学させていただきました。先生が園児たちに絵本の読み聞かせをしている姿や園児たちに接している様子を見て、現場の先生たちの仕事ぶりを学ぶ良い機会になりました。中には、道具や設備の安全上の工夫に気付く生徒もいました。



生徒の感想より

- 机や椅子、棚などの角が丸くなっていて、安全管理が徹底されているなどと思いました。
- 先生たちの「叱る時は叱る、遊ぶ時は遊ぶ」という切り替えに驚きました。
- 歌の時間に、わざとテンポを速くしたり遅くしたりしていて、一緒に歌って楽しめるような工夫をしたピアノ伴奏の弾き方ができるようになりたいと思いました。